

1. マイコプラズマ性乳房炎の猛威

—PCR装置の導入決定—

マイコプラズマ性乳房炎が酪農界の新たな脅威になっています。特にここ数年は十勝や釧路地区あるいは宗谷の大規模農場でマイコプラズマ性乳房炎の被害が目立っているようです。酪農スピードニュースでは、この中には搾乳牛の半数を失い、その被害が1農場で1億円以上というメガファームもあると報道されました。昨年も西春別などで発生し、今も終息していないとのこと。このマネージメント情報でも何回か紹介してきました（マネージメント情報 2010年3月、1月、2009年12月）が、当社としても、そうした被害から農場を守るために、マイコプラズマの嫌気（CO₂）培養を昨年より導入しています。（写真1）幸いにまだそれによって発見された症例はありませんが今後とも気を抜けない病気の一つです。

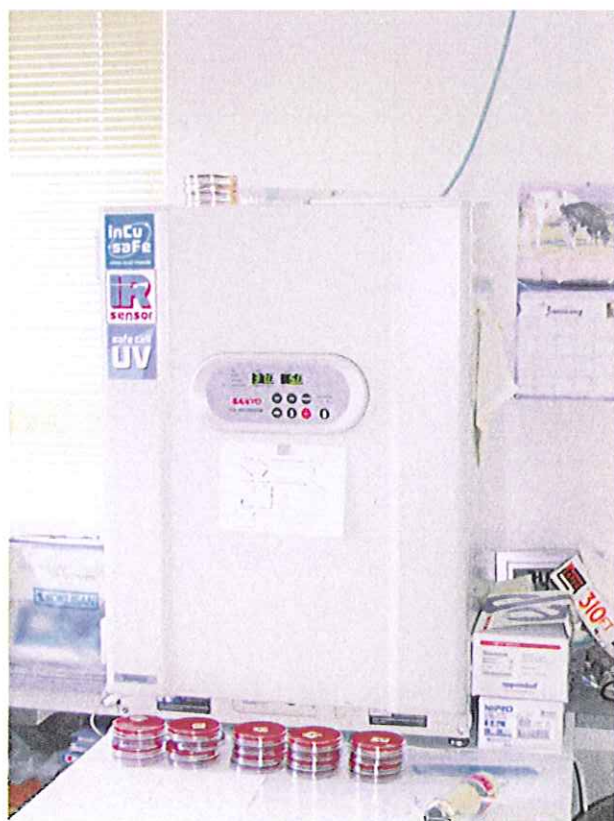


写真1：CO₂濃度がデジタル表示

ただ、現在の培養による検査は時間がかかることが欠点としてあります。そこで、より迅速で正確な診断がPCR（Polymerase Chain Reaction）法とよばれるもので、細菌やウイルスなどの持つ特定の遺伝子（DNA）断片を短時間に増幅させて診断する方法

です。酪農大学の樋口先生らのグループが開発したスクリーニングキットが発売になり、このPCR装置と電気泳動装置があれば、簡単にそして迅速に診断することができるようになりました。そこで当社としても、このPCR装置を導入することにいたしました。現在、酪農大学の樋口先生の協力を得て稼働させる準備に入っています。おそらく4月頃から稼働できるものと思いますので、自分の農場を守るためにも少なくともバルク乳のスクリーニングテストをすべての農場が定期的に行うことを強く勧めます。現在でも、前述した従来の嫌気培養法によって少し時間がかかりますが、行っています。精度に問題はありませので、今からでも積極的に行ってもらいたいと思います。バルク乳を獣医師に渡してくれるだけですので、酪農家の手間はかかりません。最寄りの獣医師に相談ください。

黒 崎

2. 新生仔牛のドライ・ウォームアップハッチ

K農場で、このたび新生仔牛を乾燥させ温めるハッチを作りました。(写真2.3) 既存のハッチにウレタンマットを敷き、電気加熱器を上部に取り付け、出入口が外気から遮断できるものです。この装置は北米の寒冷地の農場で時折みられるものです。まだ、稼働したばかりではっきりしたことは言えませんが、仔牛の健康にはかなり有効ではないかと思います。特にこの冬のような厳寒期にまず仔牛を乾燥させ体温の安定化を図れる意味は大きいとおもいます。皆さんの農場にもいかがですか？



写真2.3：新生仔牛の乾燥・ウォームアップ専用ハッチ

3. 韓国の口蹄疫・・猖獗を極める

昨年の宮崎での口蹄疫は最終的に29万頭の殺処分によってようやく終結を見ました。その悲惨さはいまだ記憶に新しいところです。しかし、韓国では、それをはるかに超える状態になっています。1月17日現在ですでに殺処分対象家畜は200万頭に迫る勢いです。宮崎の10倍になるのも時間の問題のようです。これを受けて韓国ではワクチン対象地域を全国に拡大した模様です。これは韓国が当分の間、口蹄疫清浄国とはなれないことを意味するものと思われます。この極寒のなかで、畜舎や車の消毒作業が思う

ように効果が上がっていなかったり、安楽死させる薬が底をついてしまい、緊急的に中国から輸入した薬の効きが悪く手間取っていること、さらには対応する人員の不足や疲労など様々な要因が重なり合っているようです。その猛威がどんどんと南下していることも日本にとっては、大きな脅威です。

今から寒冷期にも有効な消毒薬（不凍液などによって効果がそこなわれないもの・おそらく塩素系はだめ）などの目途（品目や量）をつける必要があるように思います。

また、以前にも警告したように口蹄疫が地域内で発生した場合の対策は、非常によく整備されてきたように思いますが、よその地域（例えば、十勝や釧路）で発生したときに根室支庁としてどのような対策を打つのか、それらの地域と連携して何をするのかが全く協議されていないのが気がかりです。今から近隣支庁との協議をしておくことが重要と考えます。

（この正月にも北海道のある地域で、口蹄疫の疑いで検査があったようで、幸い陰性だったのですが肝が冷える話です）

黒 崎

この4月から採用予定の帯広畜産大学の住谷君と東京農工大学の奥君の二人から年賀状が届きました。二人とも同じことが書いてありました。それは、「この春からトータルハードマネージメントサービスの一員として仕事ができるよう、現在、国家試験に向け猛勉強している」とのことです。二人が見事合格してこの地に来る日が楽しみです。